

校番	032	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	高等学校用
----	-----	----------	-------	------	---	-------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	沼南高等学校	校長	沖井 信	生徒指導主事	松浦 祐子
-----	--------	----	------	--------	-------

取組事例名 『体育祭』**取組のねらい『キーワード 楽しく 厳しく』**

- ・ 体育祭への参加を通して、体力の向上や運動に親しむ態度を育てる。
- ・ 規律ある集団行動や、相互を尊重する力を育てる。

身に付させたい資質・能力

- ・ 自律しながら、主体的に協働する力
- ・ 自他を認める力

取組の具体的内容『キーワード 集団の底力』

- ・ 学年対抗戦にすることで、学年全体で競技に取り組ませる。
- ・ 儀式的な場面、競技の場面等、それぞれに応じた行動や態度が取れるようにする。
- ・ 生徒全員に役員としての役割を与え、責任感を持って参加させる。

**取組の課題・創意工夫『キーワード 誠実に一生懸命』**

- ・ 学年練習を臨時で時間割に組み入れ、学年集団の結束力が高まるようにする。
- ・ 入場行進及び開会式の態度も採点対象とし、競技以外でも緊張感を持って臨ませる。
- ・ 競技ではフェアプレイを呼びかけ、対戦相手への誹謗中傷やからかい等があった場合は失格とする。
- ・ 生徒役員の仕事内容・分担を細分化し、生徒自身が「いつ・何をすればいいのか」を明確にする。
- ・ 生徒役員の事前打ち合わせ会議の中で、「一人一人が役割を果たさないと、他の人に迷惑がかかる」ことを伝え、役員としての自覚を促す。



取組の成果（効果）『キーワード やればできる』

- ・生徒の 75.8%が「体育祭の進行・運営が適切だと思う」と回答し、全体を通しての感想として「がんばった」「楽しかった」「団結できた」等の肯定的な意見が 58 件で「足元が悪かった」「競技が多すぎる」等の否定的な意見の 8 件を大きく上回った。（実施後の生徒アンケート結果より）
- ・来場した保護者からは「がんばる姿が見ることができて良かった」「生徒達が一生懸命取り組んでいる姿に感動した」等の肯定的意見が多く、否定的な意見は出なかった。またアンケートに回答した保護者の 100%が「進行・運営が適切である」と答えた。（会場での保護者アンケートより）
- ・クラスを越えて、応援する姿や欠員をカバーし合う様子が見られた。
- ・ほとんどの生徒が自分に与えられた役割を果たすことができた。

今後の展開『キーワード もっとできる』

- ・体育祭によって高まった、学年集団としての意識を維持するための継続的な取組の構築が必要。
- ・生徒会執行部が企画・運営の中心となり、教員はそのサポートに徹する形になるように仕掛けていく。
- ・そのためには、生徒会を中心とした委員会活動を充実させていくなど、生徒が主体的に動く場面を増やしていくことが必要。

他校へのアドバイス『キーワード こまやかに おおらかに』

- ・生徒の力を信じる、任せられるところは任せてみる。
- ・生徒の意見や行動が暴走や迷走をしても、慌てず冷静に、心にゆとりを持って対応する。